

多々良川のさかなを調べよう

平成21年第2回多々良川リバースクール

多々良川津屋堰（つやぜき）に造られている魚道で10月31日に生き物の観察会が行われました。参加者は大人8人と5人の小学年と幼児だけでした。当日はトンボクラブの中心メンバーの多々良小学生が行事で参加できなかったため少数の参加となりました。まず前日の午後4時に魚道の出口（水の入口）にかけたあみ（トラップ）をあげました。入っていたのは回遊魚のトウヨシノボリだけでした。秋となり回遊する種類が減少したことと水温(18.4℃)が低下し生き物の活動が鈍り始めたことが原因でしょう。トラップをあげた後、水の入口を板でとじ、魚道の一番下の段に網をかけて中の生き物が逃げないようにして水が減るのを待ちました。十分に水が減ったところで大小さまざまな網をもって魚道に入りました。その成果が表のように13種類288尾と少人数の割に多く捕れました。とくに魚道内に住みついたテナガエビや上流から増水時に流されたオイカワの幼魚、上流へ遡上中のトウヨシノボリの幼魚が多くいました。また表には示していませんが魚道内の壁面にオオマリコケムシの付着が多くので認められました。これは今後流れが弱くなると大きく発育するでしょう。8月の結果と比較すると種類数が20種類から減少し、特定の種類の個体数が多くなるなど水温の低下とともに多様性が低くなっています。それでも今回も絶滅危惧種のスジシマドジョウ小型種やメダカが採集されました。しかし、他方では特定外来種のブルーギルもおりこれには対応が急がれます。捕れたものは種類ごとの個体数と大きさを測定した後、ほとんどを無事に戻してやりました。

トラップ（わな）

種類	個体数	全長(mm)
トウヨシノボリ	4	53.5±4.5
計	4	

魚道内

種類	個体数	全長(mm)
オイカワ	109	39.1±26.2
カワムツ	1	56.0
コイ	3	311.0±190.7
ゲンゴロウブナ	3	174.0±93.5
ギンブナ	3	119.0±15.8
イトモロコ	2	61.5±0.7
モツゴ	3	95.0±8.7
カマツカ	2	82.0±14.1
スジシマドジョウ	2	51.5±3.5
ボラ	10	141.2±20.8
ブルーギル	3	104.3±1.2
メダカ	4	30.3±1.3
トウヨシノボリ	63	27.8±5.6
スジエビ	19	
テナガエビ	53	
ヌマエビ	3	
モクズガニ	1	
シジミ（黄色）	4	
計	288	

	淡水魚
	回遊魚
	汽水・海水魚



採集風景

